

多摩デポ通信 第44号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2017年11月18日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三一・一八

●HP / <http://www.tamadepo.org/>

●E-Mail depo_tama@yahoo.co.jp

季刊の秋の号の発行が遅れ、申し訳ありません。

今号は、12月の講座ご案内と9月の講座報告が中心です。TAMALASは徐々に現場で使っていたにいたるようです。多摩デポは次の提案を準備中。

12月の見学会は、印刷の原点を見つめる企画。日曜午後ですが、来られる方はぜひおいでください。

同封のしたように『出版ニュース』10月中旬号に、「多摩デポ」約十年の歩みをまとめた論文（執筆は事務局長・堀）を発表するこ

とができました。

以下、今後の予定です。

▼岐阜県図書館協議会の岐阜地区研修会の講師として依頼あり。地区として共同保存は未実施だが、優先度の高い課題と考えるので話してほしいと。12月に市立にも県立図書館の方にも聞いてもらいます。

▼多摩地域では、京王線沿線七市の図書館の広域利用圏の研修会講師として、来年2月の依頼あり。多摩デポとしては第3回TAMALAS地域説明会と位置付けて、(株)カーリルと一緒に話す予定です。

第31回多摩デポ講座 見学会

『印刷博物館と「キンダーブックの90年」展』

日曜の昼間、充実した博物館へ見学に行きます。団体見学予約をしてあり、入口での案内と館内の印刷工房での説明が付きます（計1時間）。あとは自由見学の予定です。創刊90周年を迎えた月刊保育絵本『キンダーブック』の企画展を開催中で、こちらも見どころがあります。ご一緒しませんか？



日時：12月17日(日) 午後1時30分 JR飯田橋駅 東口集合
会場：印刷博物館

文京区水道1-3-3 トップラン小石川ビル 地下
参加費：500円(入場料)

参加申込：E-mailかFaxで多摩デポへ。なるべく12月14日までに。

E-mail: depo_tama@yahoo.co.jp

Fax: 042-484-3945

主催：多摩デポ

印刷博物館 ご存知ですか？

印刷博物館は、凸版印刷が文京区小石川に本社ビルを新築した時に地下のワンフロアを使って開設した博物館（2000年開館）です。（人間のコミュニケーションの手段としての印刷）という広い視野で、ヨーロッパと東アジアに別々に始まり融合した現代までの印刷文化を紹介しています。様々な印刷機器、印刷物の実物やレプリカがゆったりと豊富に置かれ、動く展示の工夫もあり、楽しく学ぶことができます。活字を拾った印刷体験ができる工房、ビデオシアターなどもあり大変充実しています。印刷に関する資料を集めたライブラリー（ただし閉架式）やミュージアムショップも楽しいです。

ちようど今、フレーベル

館と共催して「キンダーブックの90年」という企画展示をしています。『キンダーブック』は1927（昭和2）年に『観察絵本キンダーブック』として誕生。今年で創刊90周年だそうです。幼稚園や保育園を通じて子どもや子どもの家庭に配本される月刊保育絵本の日本でのさきがけであり、そのシステムが昭和初期から始まっていたことも驚きです（福音館書店の『こどものとも』創刊は1956年。こちらはいわば、月刊物語絵本でした）。

時代年表を寄り添わせながら、大変多くの現物が展示されています。「観察絵本」と名乗っただけあって、ビジュアルで合理的でしゃれた知識絵本として、戦前のものでも大変斬新な印象があります。

ぜひ一緒にどうぞ！

◆ 第30回多摩デポ講座

「除籍候補資料の処理を考
えるー除籍と保存のジレンマ
を解消するために」

実施の報告

9月18日（月）の午後6時
30分から、国分寺労働会館
第3会議室で多摩デポ講座
を開きました。

現在、ホームページから
提供中のTAMALAS
（多摩地域公共図書館蔵書
確認システム）は、昨年5
月の発表以来、徐々に各自
治体の図書館で活用しても
らっています。その発展形
「大量一括蔵書確認システ
ム（仮称）」は、まだ正式に
発表できていませんが、
（「通信」42号に西東京市中
央図書館長に執筆してもら
ったように）、文字通り、ま
とめて大量の図書タイトル
の多摩地域内での所蔵確認
ができるシステムとして公

開準備中です。これらに実
用の見通しを得られつつあ
る現段階で、図書館業務の
中での「除籍と保存」問題
について、実務的な情報交
換と整理の場を意図したの
です。



昨年、多摩デポでは、西東京市図書館から7000件以上の大量の除籍候補資料の調査を依頼され、ISBNがある資料はTAMALASでの大量一括検索を行い、ISBNが無い資料は都立図書館の「統合検索」を使って手入力で調査しました。検索結果はお返しし、同市の除籍・保存の判断・処理に生かしてもらいました。同市からのこうすればよかった、公開時には「大量一括蔵書確認システム」の使い勝手はこうであつてほしいという経験・提案の共有は重要です。

パネリストに、西東京市の担当職員の中原千佳氏、一昨年の館長協議会の「保存と除籍」プロジェクトチームから中川恭一氏（現在、西東京市中央図書館長）、共同研究パートナーの（株）カーリルの吉本龍司氏、多

摩デポ理事の堀越洋一郎、コーディネーターは多摩デポ事務局長の堀渡でした。

当日は36人が参加されました。内訳は、多摩地域の市立図書館から7自治体、15名。他県の公共図書館員2名、大学図書館員1名。それ以外（16名）は市民、元職員などです。

この間の「多摩デポ」の取り組みの実務的部分を総括的に扱う内容なので、ぜひ



大勢来てほしいと思っていきました。参加自治体や職員数からは大勢が反応していただけでした。講座タイトルに惹かれて参加したという声もありました。また、これまでは共同保存にあまり熱心ではないと聞く幾つかの自治体からも参加してもらえました。講座を聞いてどうだったでしょうか。自分の市でも「試しに除籍の流れにTAMALASをかませてみようか」「やる自治体はここまでやっていくのだし、やれる範囲で取り込んでみようか」となれば、うれしいところ。反響が気になります。

多摩地域ではどの自治体の図書館も開館後40年以上経過しています。有限なフロアと書庫から成る図書館が、今後も〈図書館として〉持続し発展可能なシステムであり続けるためには、地域連携による共同保存はぜひ

ひとも必要だと思えます。どの図書館にもそれぞれの〈除籍と保存のワークフロー〉があると思いますが、普段それが共有されることはありません。その前提として、一昨年に詳しく基礎調査をされた、市町村立館長協議会「保存と除籍」プロジェクトの結果を、担当した調布市小池館長の了解を取って、議論の資料・素材として使うことができました。

TAMALAS発展形の話題、館長会プロジェクトの調査から見る多摩の自治体全体の保存の現状、IS



BNのデータ自体の問題点と、提供した論点が盛りだくさんでわかりにくい進行になってしまいました。

実務に直結する内容の講座には現役職員の参加が多い傾向がみられ、うれしいことです。タイトルに惹かれ実務的な解決を求めて参加した方には今回は消化不良だったかもしれません。それぞれ館の実情、取り組みの実態は違いますが、このテーマの講座はさらに工夫して再度おこないたいと思います。

三人から中身の濃い感想をいただけました。以下に掲載します。

・参加者の感想から・

「除籍と保存のジレンマ」を抱える図書館員の仕事

府中市立図書館

中田由起子・笹川美季

講座タイトルの副題「除籍と保存のジレンマを解消するために」に惹かれ初めて参加しました。私たちは市立図書館で働いており、書架のスペースも限られる中、「除籍と保存のジレンマ」は日常業務の中でも大きな課題の一つとなっています。情報が古く、利用も少なくなっている資料を除架しようとする時も、利用者から「以前図書館で見た○○の本が見たい」と求められることが時々あることを思うと、作業の手が止まってしまう事も多々あります。

当市では、「市内に1冊しか所蔵の無い本は保存する」が原則なので、多摩地区の所蔵状況を確認する作業を行うことは今のところほとんどありませんが、スペースが限られる中で物理的にどこまでその原則を遂行できるかは、常に不安に思うところでした。

講座を拝聴し、いただいた資料の中の「1冊本の所蔵数」のグラフで当市の所蔵状況をあらためて見て、差し迫った課題解決の手段としてバーチャル共同保存を真剣に考えなければならぬと感じました。

また実務的には、所蔵状況をみて保存と決めた本でも、傷み具合が激しいと資料提供時に利用者からご指摘を受けることがたびたびあります。各市で作成されている「保存シール」は、自分達が再度除籍候補にしないためだけではなく、利用者への説明となるものだと感じました。そして今回の講座の中で、資料の保存について利用者側からも高い関心を持っていただいていることがわかり、保存シールは単なる目印ではなく、図書館の姿勢を利用者にPRすることにもなるのだとも気づきました。

古い不完全なデータでは、他市のデータと同一本か判断がつきかねるという悩みを私たちも常に抱えています。ISBN無し資料の同定判断について、判断方法が確立されることを切に願うとともに、研究にお役に立つことがあれば協力していきたいと思えます。そして将来的には、本の同定をするだけではなく資料の状



態まで比較できる方法がある
と、多摩地区全体の資料
保存を考える時に有用な
ではと考えます。

まずは、実現できるところからコツコツと。丁寧に
確認しながら作業をすること
が、現場の図書館員の務
めだと強く感じられた講座
でした。

「除籍候補資料の処理を
考える」に参加して

東京外国語大学附属図書館
上村千尋

大学図書館で働き始めて
一年半が経過しました。多
摩デポ講座には以前から何
度かお邪魔しています。今
今回のテーマである「除籍
資料について」は、職場で
はあまり関わっていない業
務であり、恥ずかしながら
知識も少ないため、今回は
勉強の意味も込めて参加さ

せていただきました。

“TAMALAS”とい
うシステムについて、初め
て耳にしましたが、とても
画期的なサービスだと思
います。現時点で利用の少
ない資料だとしても、TAM
ALASを利用して最後の
一冊を残すことにより、貸
出履歴を見ただけでは今
まで判別のつかなかった資
料の希少性を判別すること
ができ、後世で価値の出る
可能性のある資料を残すこ
とにつながります。「地域で
最後の一冊である資料を残す
」という取り組みは、各図書
館の努力だけではなし得な
い課題であると思うので、
TAMALASのようなシ
ステムを使い、体系的な除
籍作業を行っていくことは、
今後全国的に必要不可欠な
ことであると思います。

大学図書館ではCIRIを
使って全国の所蔵を確認す
ることができません。私の働

いている大学では、基本的
には自分の図書館にしか
ない図書は除籍されません。
TAMALASもCIRIの
ように一般に普及され、全
国の公共図書館職員が気
軽に利用できるサービスに
なっていくことが期待され
ると思います。

しかし、TAMALAS
を各図書館が利用して最
後の一冊を簡単に知ること
ができるようになったとして
も、図書館の配架スペース
の問題はいずれ生じると思
います。各図書館で持ち
きれなくなった資料を守る
ため、図書館間で協力して
共同保管スペースを作ること
も、今後は実際に検討して
いかなければいけないと思
います。共同保管スペース
を実際に作るということに
なると、これから時間もお
金もかかっていくと思う
ので、それまでの間、TAM
ALASを利用して今まさ

に除籍されそうな図書を守
っていくことが求められる
と思います。

図書の電子化の進む時代
だからこそ、紙媒体で出版
された古い資料の保存・構
築やアーカイブ化は、図書
館のこれからの大きな役割
であると思います。資料の
保存に関して、「知りたいと
思う市民が自由に利用でき
る」を確保するため、各市
町村・都道府県が一丸とな
って考えて対策していかな
ければいけない問題である
と思います。

図書館があるから、
自宅の本棚を整理できる

鈴木由美子
(中野区在住)

今年の夏、自分の本60
0冊を処分しました。
本を捨てる作業を妨げる
のは、散らばった本を拾っ

て、読みふけてしまおうという悪い癖。

本を開くな、開いても読むな、読んでも2頁以内にしろ、と自分を叱りつけながら、まる三日間かけて本棚をすつきりさせました。本の山にぶつからずに洋服ダンスを開ける暮しは快適です。

捨てた本を取り戻したくなるかもしれませんが、図書館があるからリクエストすればいいと思いき直していきません。

問題は、図書館が価値ある本を持ち続けてくれるかという点です。

2016年3月に、多摩デポの「バーチャル共同保存図書館」を体験する会に参加しました。ISBNのバーコードを読み取ると、即座に多摩全域の所蔵状況が画面に出る、二冊以内しかない本には警告音が出て、稀少本とわかるのです。

私もバーコード読み取りを体験させてもらい、何となくスグレモノかと感動しました。

それから一年半。今年9月に再び「第30回多摩デポ講座」に出かけてみました。あのシステムはTAMALASと名づけられ、進化を続けていったようです。

多摩デポでは、新たな課題に取り組んでいました。

一つは大量の本を一括処理するシステムの公開と活用。一括処理システムが普及すれば、所蔵確認作業の時に役に立ちそうだと思います。ながら聞きました。

また、ISBNのない資料をどうするかも課題となっていました。

帰宅して、自分の本棚からISBNのない資料を抜き出してみました。一番大切なのは竹久夢二の『東京災難畫信』展集。関東大震災直後の東京を、絵と文

で描いた新聞連載コラム集ですが、震災のわずか二週間後に、子どもが大人を真似て遊んでいるという形で朝鮮人虐殺をレポートしています。

同様に展覧会の図録類「大浮世絵展」「国際絵本原画展」等々すべてISBNなし。他にも多いことでしょう。

日本の図書館を救う可能性を持った多摩デポの取組みを、これからも知りたいと思います。



(株)カーリルとの共同研究
定例会報告 その12

前回は、TAMALASを使った「大量一括処理」の報告をしました。現在のTAMALASでは一冊ごとにISBNを入力します。しかし実際に図書館で除籍作業をする場合は、一度に大量に作業しなければならぬことも多く、大量一括処理については研究の課題となっていました。既に(株)カーリルで開発は進んでおり、多摩デポの方でこれを実装可能かどうかの検証を行っています。その結果を踏まえて公開したいと考えています。

大量一括処理では、各図書館が持っているデータを大量に入力することになり、何らかの取り決め運用規定を示す必要があると考えています。その整備もあわせて進めています。

具体的には大量一括処理システムを利用したい図書館は多摩デポに申し込みをしていただき、多摩デポからはIDとパスワードを発行して運用したいと考えています。現在、参加資格、手続き、費用、ユーザーIDとパスワードの交付、禁止事項、ネットワーク・システムの運用、脱退や変更手続きなどのルールと文言をまとめているところです。

参加資格は多摩地域の公立図書館とし、参加は当然無料です。個人情報扱いませんがセキュリティに関する項目も盛り込むつもりです。このような規定がある方が参加しやすいのではないかと考えますが、図書館からのご意見もいただきながら確定していきたいです。

研究会でもう一つ話題にしているのが、(株)カーリルで開発中の「多摩地域限

定の横断検索―書誌同定システム」です。TAMALASはISBNが付与されている資料に対応しますが、出版年が古いなどの理由でISBNが付与されていない資料の判定の問題が残ります。それをデータ上で処理するシステムを開発中なのです。

各図書館の書誌データにはバラつきがあります。だからISBNが重要なのですが、それがなくても書名・著者名・出版社・出版年など、表示される書誌情報を総合的に使い比較して同一資料かどうかを判定する仕組みです。まだ開発中で、現在、課題の抽出を行っています。ぜひ使えるシステムにできるよう進めていきます。

多摩むすびメーリングリスト、「活用ください」

「多摩むすび」と聞いて、「なつかしい、今なんで?」「何それ?」に反応が分かれることでしょう。当NPO法人共同保存図書館・多摩が発足するそもそものきっかけとなった都立問題に取組んだ団体「多摩地域の図書館をむすび育てる会」の略称です。

当時、メーリングリスト(ML)が会員間の連絡用だけでなく、多摩地域の図書館関係の情報や意見交換の掲示板としても活発に利用されていきました。会そのものは多摩デポに発展的解消となりましたが、このMLだけは、掲示板として今も機能しています。最近の投稿をいくつか紹介します。

「多摩デポ講座のご案内」

「第20回 東京の図書館を考える交流集会」

「借用資料の上限価格設定について」

「東大和市・嘱託員募集」

「多摩地域友の会交流会のお誘い」

「立川市での学習会のお知らせ」

「JLAMメールマガジン第861号の記事転載について」

「三多摩図書館研究所学習会のお知らせ」

登録メンバーは多摩地域の住民・図書館関係者を中心に、現在、145人です。このMLは特定の会への所属や会費負担はなく「情報交換の場として参加したい」方ならどなたでも入れます。この特徴がおすすめポイントです。まだ入っていない多摩デポ会員にも参加いただきたいですし、多摩デポ会員以外のお友達などにも、講座のお知らせなどが負担



なく届くので、便利な情報源として紹介していただくと嬉しいですよ。

情報を得るだけでなく、ささいな事でも発信していただける、広域での情報共有ができます。10月8日に開催された多摩地域図書館友の交流会には、16自治体42人の参加がありました。あらためて情報共有・意見交換・つながる場を求めている人たちの存在を感じています。そのつなぎ役に多摩むすびの使い道はまだあるようです。

参加方法

このMLはメンバーだけが閲覧できます。メンバーになればどなたでも送受信ができ、Freemlにマイページ登録すると過去のメッセージも読めます。

参加申込は簡単です。下記のメールアドレスに空メールを送ってください。管

ML 参加専用メールアドレス
join-tama-musubi.oX8C
@ml.freeml.com



理者からご案内を返します。※迷惑メール防止のフィルタ設定などを行っている方は、@ml.freeml.com が受信できるメール設定をお願いします。

もっと詳しく知りたい、マイページ登録って何？など、ご質問があれば同じアドレスでお受けできます。多くのご参加をお待ちしております。

(同ML管理者・葦田明子)

『出版ニュース』

10月中旬号に論文掲載

「本を生かそう 保存し活用しつづけよう そのために知恵をだしあおう」多摩地域の図書館と「多摩デポ」の経験から」堀 渡
「第30回多摩デポ講座」開催を機に、これまでの10年を振り返った内容です。会員にはコピーを同封します。

「よみうりたま手箱」

『読売新聞』多摩版の「よみうりたま手箱」に図書館コラムを不定期連載。多摩地域内でも配布エリアは限られるようです。会員には『デポ通信』前号以降に掲載された分を同封します。

▼10月4日

「本を読む意義とは」

(堀 渡)

★会の現勢

2017年11月15日

現在

●正会員

(個人会員88名)

(団体会員2団体)

●賛助会員

(個人45名)

(団体1団体)

年度も後半に入りました。会の活動はみなさまの会費・ご寄付で支えられています。会費納入がまだの方はお振込みをよろしく願います。

●年会費

正会員(個人・団体)

五千円

賛助会員一口 二千円

(個人一口団体五口以上)